

黒谷聖傳

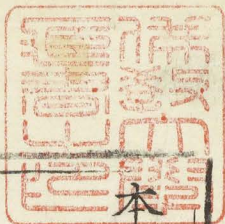
分類 254 部  
第 189 号  
全 10 册 卷  
佛教大学  
図書館所蔵  
受領第 149642 号  
昭和 年 月



0931 貴 年  
20 重 月  
3 書 日  
佛教大学蔵書  
第 149642 号



143642



朝祖師繪詞第三

卷十一 九條關白殿下御忌日御佛事々

月輪殿上人御息所造作事

選擇集制作事

上人籠居時九條殿召請事

月輪殿御出家事

大炊御門左大臣往生事

花山院左大臣往生事

民部卿範光往生事 大宮内侍往生事

野宮左大臣往生事

聖護院無品親王御往生事

卷十三

卷十二



21177

靜巖法印發心事

清水寺瀧山寺參籠事

古年童子發心事

上人師近還弟子成給自證事

藤原宗貞道場建立事

大原顯真僧都事 同大原問答事

顯真法印一向專修事

慈鎮和尚事

日吉聖真子拜殿七箇日念佛事

四天王寺事

妙香院僧正念佛歸事

卷十四

卷十五

卷十六

高野明遍僧都事

明遍僧都四天王寺夢中事

上人與明遍對面事

明遍僧都夢中念珠數遍事

明遍往生事



黒谷聖人傳繪詞第十一卷

良忠作

第一段

諸人ノ歸依アサカラサリシ中ニ九条ノ関白兼實殿下公号  
後法性寺殿信仰他ニコトニ崇重比類ナカリモ二月十  
九日法性寺殿ノ御忌日ニ御佛事アリケルニ傳供ノト  
キ僧俗座ヲ分テ立ナラヘリ。今日ハコトニ子シコロナル佛  
事ナリ。上人モ傳供ニ立給ヘシト。殿下オホセコトアリケシ  
公松殿房基公マコトニサ候ヘシト申給フ。上人ハ隱遁ノ身  
タルウヘ。九僧ニテオハスルニ。慈鎮和尚干時受戒ノ師範  
タルニ怨セラレテ。上人ヲ座上ニヒキ申サレケレハ。菩提山ノ  
僧正圓信オナシク。一座ヲユツリタテツリタニ。上人兩僧正

小  
1  
9

小  
ノ上ニ立テ。松殿マツノ俗ノ一座ニテ。オハシマシケルニムカテ。僧ノ一座ナリケリ。道徳ミチノトクノシタリ。イミシキコトニモ侍ヘル哉

第二段

月輪殿ヲツクラシケルニ。例モナキ屋ヲ一宇指圖サシヅヲタサシテ。タテサセラシケリ。殿下ノ御所オホク見候ヘトモ。ガハル屋イマ多見候ハスト。奉行ノ三位。範季ノリキ卿申サシケルハ。思食シウシク様アリトテ。イソカセラシケレハ。ツツクリタテ、ニケリ。何事ノ御断ミツケニカトオモフ程ニハヤ上人ノヤスミ。トコロナリケリ。老者ニテ。オハシセハ。マツコ、ニテ。ヤスメタテ。ツツリテ。ノチニ。御對面ミツカヘアラシタメニテ。モアリケル。御歸依ミツカヘノアマリ。コレニテ。ノ御沙汰ニヲヨヒケルハ。類タガヒナクアリカタキコトニソ。時ノ人申アヘリケル

第三段

アル時上人月輪殿へ参シタマヘル。殿下御ハダシニテ。オリムカハセタマヘハ。聖覺ホウガク法印。三井ノ大納言ノ僧都覺心。オナジシオリムカヒ。恐々オソソソセラシケリ。上人僧都ヲアヤシケニ。見タマフ。聖覺ホウガクアシハ。大納言僧都御房候。申サシケルハ。僧都トリアヘス。覺心トナノリ申サシキコ、ロハ。大納言モ僧都モ世ニオホケレハ。實名ニテ。ソレト知シタテ。タテマツラントナリ。殿下加様ニ。セサセタマヘハ。マシテ。卿相雲客ケイソウウンカクノヲリ。サハカル、コトハハリナリ

第四段

建久八年。上ノイサ、カナヤミタマフコトアリケリ。殿下フ

カク御ナケキアリケル程ニイクホトナクテ平愈シタマヒニケリ。  
上人オナシニ。九年正月一日ヨリ草菴ニトキモリテ別  
計ニオモキタマハサリケシハ藤右衛門尉重經ヲ御使ト  
シテ浄土ノ法門年來教誡ヲ承ルトイヘトモ心府ニヲサ  
メカタシ。要文ヲシル給テ且ハ面談ニテスラヘ。且ハ後ノ御  
カタニモゾナヘ侍ラント仰セラレケレハ安樂房外記入道師秀子  
ヲ執筆トシテ選擇集ヲ選セラレケルニ第三ノ章書寫ノ  
トキ予モし筆作ノ器ニタラスハカクノコトクノ會座ニ參セサ  
ラレシト申ケルヲ聞給テコノ僧僞慢ノ心フカクシテ惡道  
ニ隨シナントコレヲシリソケラレニケリ。其後ハ真觀房感西  
ニ書セラレケル。此書ヲ選進セラレテ後同年五月一日

附

殊更  
冥

上人ノ夢ノ中ニ善導和尚來應シテ汝チ專修念佛ヲ弘  
通スルコトニ來ルナリトシメシタマフ。此書真慮ニカナヘル  
コト知ヌヘシフカク信受スルニタシリ

第五段

殿下ノ御歸依アサカラスシテ上人參シタラコトニ殿下  
オリムカハセタマヘハ公卿殿上人オリサハカルコトヲ上人  
ウルサキコトニ思給テ九條殿ヘマイリタマハザラシタメニ房  
籠トテ別計ニオモキタマハス。イツカタヘモアリキタマハサリケ  
リ。殿下シキリニ御ナケキアリテタトヒ房籠ナリトモ身ニ違  
禮ナントノパンヘラントキハ來リ給ニナカト仰セラレケレハサ  
様ノ御時ハ子細ニ及ヒパンヘラスト申サレケレハセメテモ請

例

冥慮

例

申サレントテハ。御違禮ト。号セラレケル。此ノ上ヘハ。辭シ申スニ。トコロヲクシテ。參給ケルヲ見テ。門弟正行房心中ニ哀シ房籠トテ。餘ノ所ハ。マシニサスシテ。九條殿ヘノミ。參給コトシカシナカラ。檀越ヲ。ベツラヒ給トコソ。人ハソリ申サンス。シカルヘカラヌ。ツサカナト思テ。子タル夢ニ。汝ハ我シ九條殿ヘ參ルコトヲ。ゾレリヲモフナト。仰セララル。ニイカテカサルコト候ヘキト申セハ。汝ハサ思ナリ。九條殿ト我トハ。先生ニ因縁アリ。餘人ニ准スヘカラス。宿因カキリアルコトヲ知スシテ。謗スル心ヲ。コサハ。定テ罪ヲ。ヘキナリト。仰セララルト見テ。サメテノチ。上人ニ。ゴノ由ヲ語リ申シケレハ。サテサソカシ。先生ニ因縁アルコトナリトソ。ノタニヒケル。御歸依他ニ

上人

コトナルホト。マコトニ。タハコトニアラス。オホヘバンヘル

第六段

殿下ヒトヘニ。念佛門ニ入り給ニ。レノチハ。浮生ノ榮耀ヲ。カロクシテ。往生淨土ノ御イトナミ。他事ナカリキ。ツ井ニ建仁二年正月二十八日月輪殿ニシテ。御素懷ヲ。トケラル。上人ヲ和尚トシテ。圓戒ヲ受持シ。御歸依マ。スニ。スフカハリケリ

第十二卷

第一段

大炊御門左大臣經宗所勞ノトコロニアル人ノ方便ニテ。上人ヲ知識ニ請シ申サレケリ。念佛往生ノコト。日比イ

ト沙汰ニヲヨハヌハニテ。左右ナク。勸進ノコト。中々アシカル  
ヘカリケレハ。上人ノハカリコトニテ。屏風ヲヘタテ、アル僧トナ  
シトテ。法門ヲオホセラレケルニ。天竺晨旦我朝ニテ。佛法ノ  
傳ハレル次第ナント。ユ、シク。仰セラレタテ、念佛往生ノ末  
代相應ノ法ヲコト。ゴニカニ。宜説シタマフニ。左府コシヲキ、  
タニヒテ。信仰ノコ、ロオコリ給ニテレハ。一スチテノ勸化ニシ  
タカヒ。歸敬他ニコトナリキ。生年七十一。文治五年二月  
十三日。出家ヲトケラレケリ。法名金剛覺寛平法皇ノ  
御名タル由在茂申スア  
改云法性覺後所勞次第三老急ノ間同二十七日ヨ  
リ。上人參住シテ。念佛ヲス、メ申サル。翌日辰尅臨終正  
念ニシテ。往生ヲトケ給ニケリ。上人ノコ、ロハセカレコソツ

三十一

ハンヘリケル

第二段

花山院左大臣公兼雅ハブカク上人ニ歸シタマヒテ。鎮西庄  
園ノ土貢分テ。毎年ニ施入セラレケリ。我ハ院内ヨリホカハ  
車タテタルコトナシ。シカレトモ。法然上人ノ菴室ニ。車タテタ  
ランハ。ナニカクルシカルヘキトテ。ツ子ニワタリ給テ。圓頓戒ヲウ  
ケ。念佛ノ法門ヲ談セラレケリ。生年五十四。正治二年七  
月十四日ニ。出家ヲトケ。同十六日ニ。往生ヲトケラレケル  
トナシ

第三段

右京ノ權大夫隆信ノ朝臣ハブカク上人ニ歸シ。餘佛餘

行ヲサシヲキテ。又彌陀ノ一尊ヲアカメ。ヒトヘニ念佛ノ一  
行ヲツトム。ツヰ上ノ人ニシタカヒテ。建仁元年ニ出家ヲトケ。  
法ヲ飛心ト號ス。一向專念ノホカ。他事ナカリケリ。生年  
六十四ノ春。所勞危急ニヲヨフ。上人キ、給テ。住蓮安  
樂二人ノ門弟ヲツカハシテ。知識トセラレケリ。ステニオハリニ  
ノソムニ。二人ノ僧ヲ左ノ右ニヲキテ。病者ト知識ト同音ニ。  
念佛シ。來迎ノ讚ヲトナヘ。端坐合掌シテ。往生ヲトク。元  
久元年二月二十二日ナリ。紫雲音樂以下ノ奇瑞一  
ニアラス。後ニ正信房カノ墓所ニ向テ。念佛シタマフニ。異香  
ナラセス。日本往生傳ニ。ルレシラレケルトナム。

#### 第四段

卿ノ二品ノ弟。民部卿範光ハ。後鳥羽院ノ寵臣ナリ。ヒト  
ヘニ上人ニ歸シテ。稱名ノホカ。他事ナカリケリ。生年五十  
四ノ春。兼元々々年三月十五日ニ出家ヲトケ。法名ヲ靜  
心ト号ス。病惱危急ノ由。キコシメサシケレハ。レノヒテ。御幸  
アリケリ。後生ノコト。イカ、思ヒサタメ。パンヘルト。御々ツ子アリ  
ケレハ。今度ノ往生決定シテ。サラニラタカフトコロ候ハス。ソノ  
ユヘハ。去夜ノユメニ。一人ノ高僧キタル。誰人ニマシス。ソト  
問ニ。我ハコシ。源空ナリ。唐土ニシテハ。善道トナツケ。此ノ土ニ  
シテハ。源空トイフ。此界ニ來テ。衆生ヲミチヒクコトモステニ。三  
箇度ナリイ。汝ニ命終ノ期ヲレメサンカタメニ來臨ス。明  
後日午ノ尅。ソノ期ナルヘシト。給ト見テ。夢サメパンヘリヌ。

ステニ冥ノ造告ニアツカシリ。往生ムナシ。カルヘカラサル由ヲ  
存スト申ス。コレヲ聞食サシテ。フカク御隨喜アリケリ。件ノ  
凡時スコレモタカハス。正念ニ安住シ。稱名相續シテ。往生  
ヲトク。不思議ノコトナリケリ

第五段

大宮ノ内府實宗ハ歸敬ノ志シ。他ニコトニオハセシカハツ子  
ニ上人ニ謁シテ。念佛往生ノミチヲアキラメ。ツ井ニ上人ヲ  
和尚トシテ。建永元年十一月二十七日。出家ヲトケ。尊  
修ノツトメ。ヲコタリ。タマハス。上人ノ入滅ヲカナシミテ。初七  
日ノ諷誦ヲサ、ケラシキ。生年六十七。建曆二年十二  
月八日。正念タカハス。念佛相續シテ。往生ヲトケラレニケリ

第六段

野ノ宮ノ左大臣公繼ハ。師弟ノ契キヤリ。アサカラサルニ依リ  
テ。興福寺ノ衆徒。上人ノ念佛真行ヲソ子ニ申シテ。奏聞  
ニ及シトキハ。上人ナラヒニ。弟子權大納言公繼ヲ遠流セ  
ラルヘキ由。申狀ヲサ、クトイヘトモ。サラニ。ソノコ、ロサシヲア  
ラタメス。尊修ノツトメ。ヲコタルコトナクシテ。生年五十三。嘉  
祿三年正月廿三日ニ職ヲ辞シ。同シキ晦日ニ。種々ノ  
奇瑞ヲアラハシテ。往生ヲトケイマニ。末代ノ美談トナリ。給ヘ  
ル。六テ月。卿雲客ノ中ニ。化導ニ歸スル人オホク。侍ヘリシ  
カトモ。ヒケホニヨリテノセス

職

第十三卷

第一段

聖護院ノ無品親王 靜惠 御違例ノ時 醫寮術ヲツクサ  
 ルトイハトモ。ルシナカリケレハ。門徒ノ上総宰相僧正行  
 舜大貳僧正公胤以下ノ人々。信讀ノ大般若經ヲ轉  
 讀シテ。祈禱ヲイタサル。ゴノ人々ハ。ミナ佛家ノ鸞鳳僧中  
 ノ龍寫ナリキ。シカシトモ。ステニアヤウクオハシマレケレハ。ゴノ人々  
 ヲサシヨカシテ。上人ヲ召請セラレシニ。御使ニ度マテハ。カタク  
 辭退シテ。マイリタマハス。第三度ノ御使ニ。宰相律師實昌  
 ト云。人來臨シテ。理ヲメケテ。一度ニイリタマヒテ。念佛ノコト  
 申シ。ギカセマイラセサセ給ヘトテ。引立ル様ニセシカハ。ゴトニ  
 往生シ。マシマスヘキ人ニテモ。ホニシラスラントテ。ヤカテ律師ノ

車アリ具シテ。マイリタマヒヌ。親王御對面アリテ。イカ、シテ。  
 コノタヒ生死ヲハナレハンヘルヘキ。後生タスケ給ヘト。仰ラレ  
 ケレハ。上人臨終ノ行儀ヲ談シ申サシ。彌陀ノ本願ノオモ  
 △キヲ。ノヘタマフニ。親王感涙シキリニ。タタリタマヒ。歸敬ノタ  
 ナコ、ロヲソ。合セラレケル。上人ハ。ヤカテカヘリ給ニケレハ。次ノ  
 日御往生アリケルニ。最後ニ念佛一萬五千遍申サセ  
 給テ。念佛ト。トモニ御イキト、マリ給ニケリ。諸人隨喜ノタナ  
 コ、ロヲ合せ。上人ノ徳ヲ。ホメ申シケル。實昌律師後ニ御  
 往生ノ様ヲ。上人ニ語り申サシケレハ。上人モヨロコヒ申サ  
 レケリ

第二段

イリモヒ

延曆寺東塔竹林房ノ靜嚴法印吉水ノ禪房ニイタリ  
テイカ、シテコノタヒ生死ヲハナシ候ヘキトノ給ケシハ源空  
コソ退シ申度ハンヘシトコタヘ給ケルニ法印又決撰門ハサ  
ルコトニテ出離ノ道ニヲキテハ智徳イタリ道心フカクマシ  
マセハ定メテ案立ノ義候ラント申サルレハ源空ハ彌陀ノ  
本願ニ乘シテ極樂ノ往生ヲ期スル外ハマタク知コトナシ  
ト法印申サル、様所存モカクノコトシ義言ヲウケタマハリ  
テ愚暗ヲカタクセンカタメニ尋申ストコロナリタ、シ妄念ノ  
キホヒオコリ侍ルヲハイカ、シ候ヘキト上人ノ給ハクゴシ類  
惱ノ所爲ナシハ凡夫ノカラ及ヘカラスタ、本願ヲ憑テ  
名號ヲ唱フレハ佛ノ願カニ乘シテ往生ヲウト知レリト。

法印信心決定シ疑念タチマチニトケヌ。往生サラニ疑ナシ  
トテ退出シ給ケリ

第三段

上人清水寺ニシテ説戒ノ次テニ罪惡ノ凡夫ナレトモ本  
願ヲタノミテ念佛スシハ往生ヲタカヒナム子子ノコロニス、  
メタマヒケシハ寺家ノ大勸進沙彌印藏フカシ本願ヲ信  
シヒトヘニ念佛ニ歸スコレニ依テ文治四年五月十五日  
瀧山寺ヲ道場トシテ不断常行念佛三昧ヲバシメシニ  
能信ト云ヘル僧香炉ヲトリテ関白發願シテ行道スルニ  
願主印藏寺僧等ナラヒニ比丘比丘尼ゾノ數ヲ知ラス  
結縁シケリゾノ行今ニ退轉ナシ阿彌陀堂ノ常行念佛

開

ト號スル是ナリ。抑清水寺ノ靈像ハ極樂淨土ニハ一生  
補處ノ薩埵娑婆穢國ニハ施無畏者ノ大士ナリ。仁和  
寺ノ入道親王ノ御夢想ニ觀音ミツカレノタマハク。清水  
寺ノ瀧ハ過去ニモコシアリキ。現在ニモコシアリ。未來ニモコ  
シアルヘシ。是則大日如來ノ鑿字ノ智水ナリトテ。一首ヲ  
詠シタマフ  
清水ノ瀧ヘマイレハヲツカラ。現世安穩往生極樂ト  
レメシ給ケレハ。大威儀師俊縁ヲ御使トシテ。寺家ヘ仰せ  
送ラレケルトカヤ。ニコトニゾノタノミ深カルヘキモノナリ。上人ノ  
勸化ニヨリテ。コノ砌ニシテ。不斷念佛ヲハシメケルモ。由有  
ルコトニヤ侍ヘルラム

第四段

南都興福寺ノ古年童ハ上人清水寺ニテ説戒ノ時。念  
佛ヲスハメ給ヲ聞テ。歸敬渴仰ノアリ。發心出家シテ。松  
蔭寺ノホトリニ菴リヲ結テ。念佛シケルカヅ井ニ靈瑞ヲ感シ。  
高聲念佛シテ。往生ヲトク。能信ト云。僧如法經ノカウソ  
ヲウエナカラ。往生人ニ縁ヲ結ハンガタメニ。棺ノサキノ火ノ  
役ヲツトメテカヘルニ。異香衣ノヲヘニ薰ス。人々奇特ノ思  
ヲ成シ。信心ヲマス者。オホカリナリ

第五段

建仁二年三月十六日。上人語テノタハク。慈眼房ハ受  
戒ノ師範尤ウヘ同宿シテ衣食ノ二事一向。コノ聖リノ

扶持ナリキ。然レトモ。法門ヲ悉ク習タルコトハナシ。法門ノ  
義ハ水火ノコトク相違シテツ子ニ論談セシナリ。コノ聖ト源  
空トハ南北ニ坊ヲナラヘ住シタリシニアル時聖リノ居シタニ  
ヘル坊ノニエラスクルニ。聖リ見タマヒテ。アノ御房カトヨヒ給  
ヘハ。留リテ縁ニ居テ候ト申ス。大乘ノ寶智ヲコサテ。淨土  
ニ往生シテヤト。ノ給ニ。往生シ候ヒナント。答申スト。キナニ  
ニサハ。見エタルソト。ノタニ。間。往生要集ニ。見エテ候ト申ス。  
往生要集ノ中ヲモ。見給タルソト。ノ給間。イサタシカ中ヲ  
見タルヤラント申シタシハ。聖腹立テ枕ヲモテ。投打ニツチタ  
マヘハ。ハラニケテ。我カ坊ノカタヘ。ニカリタレハ。チテオワシテ。ハ  
ハキノ柄ヲモテ。有ヲウチナントシタマヒモ。又後ニ文ヲモテ。オワ

キ  
ア

料。

シテ。コレハイカニ云コトソト。ノ給。心ノ中ニ無益ナリ。事ノ出  
クシハイマハ物申サシト誓ヲオコシテ。イザイカ、候ラント申  
タシハ。又腹立テ。ソシラカ様ナル人ヲ。同宿シタルハ。加様ノ  
事ヲモ。云合セシ。新ニテコソアシト。給キ。加様ニシテツ子ニ  
イサカヒハセシカトモ。寂後ニハ。覺悟房ト云シ。聖ニ二字ヲカ  
カセテカヘリテ。弟子ニ成テ。坊舎聖教ノユツリ文ヲモ。モトハ  
讓渡スト。書シタリシヲ。トリ返シテ。進上ト書ナホシテ。タヒテ  
生々世々ニ。タカヒニ。師弟ト成ラン。新ニ申スソト。ノ給モ。真  
言ノ師範ナリシ。相摸河闍梨重真モ。寂後ニハ。受戒ノ弟  
子ニナリテ。戒ヲウケタマヒキ。正シクニ。部ノ灌頂ヲサツケタ  
マヒシ。丹後ノ迎攝房モ。カヘリテ。弟子トナリテ。顯宗ノ法

暫

ス

門ナラヒニ。浄土宗ノ事ヲハ。源空ニ習テツ井ニ往生ヲトケ  
ニキ。當時ノ院主僧部圓長ハ重圓阿闍梨ノ真言ノ弟  
子ナリハ。源空ニハ。同朋ナリ。シカルニ。カノ圓長真言ノ教  
相ヲ重宴阿闍梨ニ問ケレハ。心ニハオホユレトモ。我ハ非學  
生ニテ。エ云ヒラカヌトヨ。法然房ニ問テ。イハセテ申サント重  
宴ノタニヒケレハ。圓長モ後ニハ弟子ニ成テ。物習ント云テ  
ヤカテ受戒シテ。師弟ノフルマヒニテアリキ。寂初ノ師範ナリ  
シ。義作ノ觀覺得業モ。弟子ニナリテ。源空ヲ戒師トシテ。  
受戒シ給キ。オホク師範ミナ弟子ト成給シ中ニモ當時ノ  
碩學共ノ慈眼房ノ受戒ノ弟子ナラヌハナキゾノ師ノ  
慈眼房ノカヘリテ。弟子ニ成給タルコトハ。不思議ノ事トコ

ソオホユシナント。サニサマカタリ給ハキク人皆隨喜シ不思  
議ノ事ナリトゾ申アヒケル

第六段

左衛門志藤原ノ宗貞ナラヒニ妻室惟宗ノ氏女。夫婦  
心ヲ一ニシテ。堂舎建立ノ嚴願ヲナシ。雲居寺ノ北東ノ  
頬ニゾノ地ヲシメ。建仁元年四月十九日ニ上棟シ。同二  
年春ノ比。ソノ功ステニ終ニケリ。本尊ハ阿彌陀ノ偽脇士  
ハ。觀音地藏ヲ安置シタテマツル。同年ノ秋ノコロ。上人吉  
水ノ御房ヨリ。雲居寺ノ勝應彌陀院へ百日參詣シ給  
シ時。願主宗貞門前ニ蹲居シテ。堂舎建立ノ旨趣ヲノヘ  
御供養アルヘキ由ヲ望申ナシハ。上人堂内ニ入給テ。佛

像  
ツ  
イ

像。偽安置ノ體ヲ御覽セラシ。コノ堂ハ源空供養スヘキ堂ニ  
アフトテ出ラレニケル。願主ソノ心ヲ得ズシテ。周章スルト  
コロニ。或人申シテ云。上人ハ勢至菩薩ノ垂跡ニシテ。スト  
云コト。人口アミ子シ。シカルニ脇士ニ。勢至菩薩ノマシサ、  
ルコト。上人ノ御心ニ違スル歎ト。申シケレハ。イソキ勢至菩  
薩ヲ造立シ。本ノ地蔵ヲハ。異所ニ渡シタテマツル。ソノ跡ニ  
勢至菩薩ヲ居タテシリテ後。上人又雲居寺御參詣  
ノ時。建仁二年八月晦日。カサ子テ。案内ヲ申ス。趣ニ。相  
違ナク。供養ヲトケラレニケル。別ノ御啓白ナシタ。念佛千  
反ヲ唱ヘタニヒ。ヤカテ不断念佛ヲ始行セラシ。寺號ヲ引  
攝寺トツケラル。コノ堂イニアリ。勢至菩薩ノ後口ニスヘタ

テマツル。地蔵コシナリ  
第十四卷

第一段

天台座主權僧正顯真イマタ大僧都ニテオワセシトモ  
兼安三年生年四十三ニシテ。官職ヲ辞シ。菩提ヲ求テ  
大原ニ籠居。春秋四箇年ニ及フトコロニ。安元二年七月  
八日。建春門院崩御ノ間。カノ御菩提ノ爲ニ。法住寺ニ  
勅法華堂ヲ立ラシ。七々ノ御忌ヲ迎ヘテ。同八月廿五  
日ニ行法ヲハシメラシ。シテ。先達ニ。叡山法華堂ノ一和  
上位正覺房真慧ヲ召サシ。カハ。勅定ニシタカヒシ時。大  
原ノ僧都。カノ闕ヲソミテ。聊宿願ノ事侍ヘリ。シハラタ入

衆アルヘカラサル由。堂中ニテシヲクリテ後。同九月一日子  
ノ尅ニ登山シ。則參堂シテ。一衆ニ烈シ。藤次ニマカセテ。三  
床ノ二一和尚ニ著シ。又ノ尅一時ツトメラシテ。後一床一  
和尚ニツキタマヒテ。ソノ千八。禪光坊顯明ヲ代官トシテ。  
三大師天台傳教慈覺ノ御忌日以下大小ノ課役等ミナ新  
入ノコトク。勤仕セラル。又四季ノ懺法ノ初夜ノ時ニハカ  
ナラス。參堂シタマヒキ。是則出離ノ道。ダヤスカラサルコトヲナ  
ゲキテ。名利ノ學道ヲノカシ。籠居ストイヘトモ。決定出離ノ  
直路思案イマタ。一決セス。晝夜ニ此事ヲノミナケク。處ニ。  
十二禪衆ノ闕ヲ聞トキ。ガノ半行半座ノ行法ハ。天台  
大師御筆ノ法華經ヲ本尊トシテ。傳教大師弘仁三

年七月ニ草創シタマヘル。要行ナリ。コシ生死解脫ノ直  
路尤ヘシト。思ヒヨリ給テ。十二禪衆ニ烈シ給ニケリ。毎日  
毎時ノツトメニ。懺法一卷ヲクハヘ修スルコトハ。ガノ僧部ハ  
シメヲカレシカハ。一衆同心シテ。ソノ行イマニヲコタラス

第二段

其後八箇年ノ歲曆ヲスキテ。壽永二年九月二日。吉ノ  
御幸ノ時。座主明雲ノ賞ヲユツリテ。法印ニ叙セラルトイ  
ヘトモ。カタク松門ヲトチ。ピンカニ。蓬屋ニ居シテ。コトニシタカハ  
ス。タ、生死ノ出カケコトヲノミナケク。同シキ法流ヲクメル  
ヨシミヲモテ。ツ子ニ永弁法印ト出離ノ道ヲカタリアハセ給  
ニ。カクノコトキノコトハ。法然上人ニ御尋アルヘキ由ヲ。永弁

申ケルニ。ツキテ。相摸房ト云者ヲ。使者トシテ。登山ノ便宜  
ニカナラス音信セシメ給ヘ。申承ルヘキコト。侍ヘル由仰セラ  
シタリケレハ。上人坂本ヘ渡リ給テ。カクト申サレナリ。法印  
オツシマシアヒテ。對面シ。コノタヒイカ、シテ。生死ヲハナシ。侍ヘ  
ルヘキトノ給ニ。上人イカニモ。御計ヒニハスクヘカラスト。法印  
申サレケルハ。先達ニシマセハ。定メテ思定メ給ヘル旨アル  
ラシメシタマヘトナリトノ給ヘハ。上人自身ノ爲ニハイサ、  
カ。思定メタル旨候。タ、ハヤク極樂ノ往生ヲトケ候ヘシト。  
申サレケレハ。法印順次ノ往生ドケカタキユヘニ。コノ尋ライ  
タスイカ、シテコノタヒ。タヤスク往生ヲトクヘキヤトノ給フ時。  
上人答ヘタニハク成佛ハカタシトイヘトモ。往生ハ得ヤスシ道。

緋善導ノ心ニヨシハ。佛ノ願カラ強縁トシテ。亂想ノ凡夫  
淨土ニ往生スト。其後タカヒニ。言説ナクシテ。上人カヘリ給  
テ。後法印ノ給ケルハ。法然房ハ智慧深遠ナレトモ。聊サカ  
偏執ノ過アリト。上人コノ事ヲカヘリキ、給テ。我カ知サル  
コトニハカナラス疑心ヲ。オコスコトナリトノ給ケルヲ。法印又  
カヘリキ、給テ。コトニ然ナリ。我々顯密ノ教文ニ。誓古ヲ  
ツトムトイヘトモ。シカレナカラ。名利ノ爲ニシテ。淨土ヲ心サ、  
サルユヘニ。道緋善導ノ釋義ヲウカ、ハス。法然房ニアラスハ。  
タシカ。カクノコトクノコトハ。ヲイタスヘキヤトテ。コノ語バニマケテ  
百日ノ間。大原ニ籠居シテ。淨土ノ章疏ヲ。披閱シタマヒ  
テノキ。ステニ。淨土ノ法門ヲコソ。見立侍タシ。來臨シテ。談セ

ハケテ

シメ給へト。仰セラレタリケレハ。文治二年秋。比。上人。大原  
へ渡リ給フ。東大寺ノ大勸進。俊乘房重源イマタ。出離  
ノ道オモヒ定メサリケルヲ。哀シミ給テ。コノ由ヲ告仰セラレ  
タリケレハ。弟子三十余人ヲ相具シテ。大原ニムカフ。勝林  
院ノ丈六堂ニ會合ス。上人ノ方ニハ。重源以下ノ弟子  
共ゾノカスアツマレリ。法印ノ方ニハ。門徒以下ノ碩學并ニ  
大原聖達坐レツラナシリ。山門ノ衆徒ヲハシメテ。見聞ノ  
人オホカリケリ。論談往復スルコト。一日一夜ナリ。上人法  
相三論華嚴法華真言佛心等ノ諸宗ニアタリテ。凡夫  
ノ初心ヨリ。佛果ノ極位ニイタルマテ。修行ノ方軌。得度ノ  
相負ツフサニノタニヒテ。是等ノ法。ミナ義理フカク。利益スク

シタリ。機法相應セハ。得達クヒスヲ。廻ラスヘカラスダ、シ源  
空コトキノ。頑愚ノタクヒハ。ザラニツノウツハモノニアラサルユ  
ヘニ。サトリカタク。二トヒヤスシ。シカル間。源空發心ノ後。聖道  
門ノ諸宗ニツキテ。ヒロク出離ノ道ヲトフラフニガシモカタク。  
コレモカタク。是則世クタリ。人ヲロカニシテ。機教アヒソムクユ  
ヘナリ。シカルヲ。善導ノ釋義。三部ノ妙典ノコ、ロ。彌陀ノ  
願カヲ強縁トスルユヘニ。有智無智ヲ論セス。持戒破戒  
ヲエラハス。無漏無生ノ國ニムシテ。ナカク不退ヲ證スルコ  
トダ、コレ淨土ノ一門。念佛ノ一行ナリトテ。法藏ノ因行  
ヨリ。彌陀ノ果德ニイタルマテ。理ヲキハメ。詞ヲツクシオハリテ。  
タ、シコレ涯分ノ自證ヲ。フルハカリナリ。ニタク。上機ノ解

比丘。

行ヲサマタケントニハアラストノタマヒケレハ。法印ヨリハシメテ。  
滿座ノ衆ミナ信伏シニケリ。カタチヲ見レハ。源空上人。マコ  
トニハ。彌陀如來ノ應現カトシ。感談シアヘリケル。法印香  
燭ヲトリ。高聲念佛ヲハシメ。行道シタラニ。大衆ミナ同音  
ニ。念佛ヲ修スルコト。二日三夜。コエ山谷ニミチヒ、キ林  
野ヲウコカス。信ヲオコシ縁ヲムスフ人。オホカリキ

第三段

法印道心ウチニ催シテ。出離ノ要路ヲモトメラシケルニ。上  
人ノ諷諫ヲ得給テ後ハ。タチトコロニ餘行ヲ指量テ。一向  
專修ノ行者トナリ給ニケレハ。自身ノ出離ヒトヘニ。念佛  
往生ヲ期シ給ノミアラス。剩サヘ。又他人ヲス、メラシキ。

姨ノ禪尾ヲス、メンタメニ。念佛勸進ノ消息ヲツカハサル。  
世間ニ流布シテ。顯真ノ消息ト号スルコシナリ。ソノ詞ニ  
云。我々佛ヲ念スレハ。佛我ヲ照シ給フ。光明我ヲテラセハ。  
罪障キエスト。イフコトナシ。藥王樹ニフル、モノハ毒ナシトモ。  
クスリトナリ。光ヲカウフランモノ。タシカ罪障ノコリアラン。カクハ  
カリヤスキ行ヲ。無數劫ノアヒタ。思ヨラサリケルガナシサヨ。時  
過タル智慧禪定ヲ修行セムヨリモ。利益現在ナル。光明  
名號ヲ稱念スヘシ。一行スナハチ。一切行ナレハ。念佛ノ一  
行ニ。諸行コトコトクヲサマリ。一念スナハチ。無量念ナシハ。一  
稱彌陀ナニ不足カアラン。法界宮ニイラントオモハ。極樂  
ノ東門ヨリ入シ。法身體ヲ證セントオモハ。彌陀ノ名號

ヲトナフヘシ。道<sup>ミチ</sup>緝<sup>セツ</sup>ハ講<sup>カウ</sup>説<sup>セツ</sup>ヲステ、一向ニ念佛ニナリ。善道  
 ハ難<sup>ナン</sup>行<sup>コウ</sup>ヲキラヒテ、專<sup>セン</sup>修<sup>シュ</sup>ヲス、ム。占<sup>セン</sup>島<sup>シマ</sup>ノ林<sup>リン</sup>ニイタリヌシハ。餘  
 香<sup>カウ</sup>ヲカ、ス。淨<sup>ジユウ</sup>名<sup>ナ</sup>ノ室<sup>シツ</sup>ニ入<sup>イ</sup>ヌシハ。功<sup>コウ</sup>德<sup>トク</sup>ノ香<sup>カウ</sup>ヲノミカク。コノ山  
 ニ入<sup>イ</sup>ラン人<sup>ニン</sup>ハダ、念<sup>ネン</sup>佛<sup>ブツ</sup>ノ香<sup>カウ</sup>ヲノミカキ。念<sup>ネン</sup>佛<sup>ブツ</sup>ノ音<sup>オン</sup>ヲノミキク  
 コトニテ候<sup>コトニテコトナリ</sup>ハ、ヤ<sup>取<sup>テ</sup>註<sup>シ</sup></sup>。文<sup>モン</sup>治<sup>ジ</sup>二年十二月廿九日。護<sup>ゴ</sup>摩<sup>マ</sup>  
 堂<sup>ドウ</sup>尼<sup>ニ</sup>御<sup>ミ</sup>前<sup>ゼン</sup>ヘト<sup>云</sup>法<sup>ホウ</sup>印<sup>イン</sup>專<sup>セン</sup>修<sup>シュ</sup>ノ身<sup>シン</sup>トナリ。念<sup>ネン</sup>佛<sup>ブツ</sup>ヲ行<sup>コウ</sup>トシ給<sup>ケル</sup>  
 レコトコノ消息<sup>ソウシキ</sup>ニ明<sup>メイ</sup>ラカナリ。又<sup>マタ</sup>十二人ノ衆<sup>シュウ</sup>ヲ定<sup>テイ</sup>メヲキテ。  
 文<sup>モン</sup>治<sup>ジ</sup>三年正月十五ヨリ。勝<sup>セウ</sup>林<sup>リン</sup>院<sup>イン</sup>ニ不<sup>フ</sup>断<sup>タン</sup>念<sup>ネン</sup>佛<sup>ブツ</sup>ヲハシメヲ  
 コナハレシニ。法<sup>ホウ</sup>印<sup>イン</sup>八十二人ノ隨<sup>ズイ</sup>一<sup>イツ</sup>ニテ。戊<sup>ゴ</sup>尅<sup>コク</sup>ヲソツトメ給<sup>ケル</sup>  
 ケル。關<sup>カン</sup>白<sup>ハク</sup>ノ夜<sup>ヤ</sup>ハ十二人皆<sup>ゼン</sup>參<sup>サン</sup>シ。行<sup>コウ</sup>道<sup>ドウ</sup>シテ。同<sup>ドウ</sup>音<sup>オン</sup>ノ念<sup>ネン</sup>佛<sup>ブツ</sup>ヲ  
 修<sup>シュ</sup>スルニ。毗<sup>ヒ</sup>沙<sup>シャ</sup>門<sup>モン</sup>天<sup>テン</sup>王<sup>ワウ</sup>烈<sup>リョウ</sup>ニ立<sup>タチ</sup>給<sup>ケル</sup>ヘリケルヲ。法<sup>ホウ</sup>印<sup>イン</sup>マノアヌ

御傳卷三

十七

リ拜<sup>ヒ</sup>シタマヒテ。良<sup>リョウ</sup>忍<sup>ニン</sup>上人<sup>ジョウジン</sup>ノ融<sup>ユウ</sup>通<sup>ツウ</sup>念<sup>ネン</sup>佛<sup>ブツ</sup>ニ。鞍<sup>アン</sup>馬<sup>マ</sup>寺<sup>ジ</sup>ノ毗<sup>ヒ</sup>沙<sup>シャ</sup>  
 門<sup>モン</sup>天<sup>テン</sup>王<sup>ワウ</sup>クミシタマヒ。剩<sup>セウ</sup>へ諸<sup>シュ</sup>天<sup>テン</sup>善<sup>ゼン</sup>神<sup>シン</sup>ヲス、メイシ給<sup>ケル</sup>ヒケル  
 コトモ。思<sup>シ</sup>合<sup>カウ</sup>セラシイヨイヨ信心<sup>シンシン</sup>ヲニ。貴<sup>キ</sup>クオホヘケレハ。念<sup>ネン</sup>佛<sup>ブツ</sup>  
 守<sup>シュ</sup>護<sup>ゴ</sup>ノ爲<sup>タメ</sup>ニ。毗<sup>ヒ</sup>沙<sup>シャ</sup>門<sup>モン</sup>天<sup>テン</sup>王<sup>ワウ</sup>ヲ當<sup>オウ</sup>室<sup>シツ</sup>ノウチニ。安<sup>アン</sup>置<sup>チ</sup>セラケリ

第四段

法<sup>ホウ</sup>印<sup>イン</sup>一<sup>イツ</sup>ノ大<sup>ダイ</sup>願<sup>ガン</sup>ヲタテ、云<sup>イハ</sup>ク。コノ寺<sup>ジ</sup>ニ五<sup>ゴ</sup>坊<sup>ポウ</sup>ヲタテ、一向  
 稱<sup>ショウ</sup>名<sup>メイ</sup>ヲ相<sup>ソウ</sup>續<sup>ジツ</sup>シテ。餘<sup>ヨ</sup>行<sup>コウ</sup>ヲマシヘツトメシト。ソノ願<sup>ガン</sup>ムナシカラス。  
 ツ井<sup>ツヅ</sup>ニ。文<sup>モン</sup>治<sup>ジ</sup>三年十月ニ。タサレニケリ。池<sup>チ</sup>上<sup>ジョウ</sup>ノ阿<sup>ア</sup>闍<sup>ヤク</sup>梨<sup>リ</sup>皇<sup>クワン</sup>慶<sup>ケイ</sup>  
 ノ舊<sup>キウ</sup>跡<sup>セキ</sup>護<sup>ゴ</sup>法<sup>ホウ</sup>守<sup>シュ</sup>護<sup>ゴ</sup>ノ靈<sup>レイ</sup>地<sup>チ</sup>ニ。五<sup>ゴ</sup>坊<sup>ポウ</sup>ヲ立<sup>タチ</sup>。楞<sup>レイ</sup>嚴<sup>エン</sup>院<sup>イン</sup>安<sup>アン</sup>樂<sup>ラク</sup>ノ谷<sup>コ</sup>  
 ラツツシテ。新<sup>シン</sup>安<sup>アン</sup>樂<sup>ラク</sup>ト號<sup>ケウ</sup>シ。性<sup>ショウ</sup>智<sup>チ</sup>房<sup>ポウ</sup>境<sup>キョウ</sup>智<sup>チ</sup>房<sup>ポウ</sup>妙<sup>ミョウ</sup>智<sup>チ</sup>房<sup>ポウ</sup>佛<sup>ブツ</sup>智<sup>チ</sup>  
 房<sup>ポウ</sup>勝<sup>ショウ</sup>智<sup>チ</sup>房<sup>ポウ</sup>トソ。ツケラシケルイマニ退<sup>タイ</sup>轉<sup>テン</sup>セストナン。カノ時<sup>トキ</sup>六

佛ノ上人俊乗坊。又一ノ意樂ヲオコシテ。我國ノ道俗  
炎魔王宮ニヒサマツキテ。名字ヲ問シントキ。佛名ヲ唱へ  
シメンタメニ。阿彌陀佛名ヲツクヘシトテ。ミツカラ。南無阿  
彌陀佛トモ號セラシケル。ゴシ我朝ノ阿彌陀佛名ノハシ  
メナリ

第五段

其後三千ノ衆徒ヲシテ。舉レ申スニヨリテ。文治六年三  
月七日天台座主ニ。補セラルト云ヘトモ。ガタク辞シ申給  
レ。勅使大原ヘムカヒテ。宣命ヲクダシテ。座主職ヲサツケ  
ラルツ井ニ召出サシテ。同五月二十四日寂勝講ノ證義  
ヲツトメ。同二十八日權僧正ニ拜住ス。治山三箇年ノ

任

論義  
傳教大  
師御廟

間。内論義二箇度寂光大師ノ御廟。淨土院ノ番論  
義ナント。取オコナハシラカ山ノ佛法ノタエタルヲツキス。タ  
タルヲオコサレシカトモ。ガタハラニハ。ナホ稱名ノ行業。ヲコタラ  
スレテ。法華堂ノ初夜ノ行法ニハ。高聲念佛千遍ヲクハヘ  
俵セラシモ。ソノ行イニ退轉ナシ。日比ノ腫物ノイタハリ。ニハ  
カニ増氣シテ。淨土院ノ番論義ノ夜。建久三年十一月  
十四日寅尅東塔圓融房ニシテ。正念タカハス。念佛相  
續シ。往生ノ素懷ヲトケ給キ。遺言ノ旨アリケレハ。スナハチ。  
大原ニヲクリタテツリヌ。近古ノ高僧。山門ノ英傑ナリ。シ  
カシナカラ。上人ノ訓導ニヨリテ。出要ヲオモヒ定メラシキ。  
心アラシム人タレカ。ゾノアトヲコヒ子カハサラム。僧正ツ子ニ。ノタ

三ツケルハ。一向專修ノ身トナリテ。顯密ノ行業ヲサシヲキシ。  
ハシメハヨニ心細カリシナリトシ。申サシケル

第十五卷

第一段

慈鎮和尚号吉水僧ハ法性寺殿忠通公ノ御息青  
蓮院ノ覺快法親主鳥羽院弟七官ノ附弟山門ノ樞鍵秘教  
ノ棟梁トシテ三昧ノ一流秘決ヲツクシ。與義ヲキハメ山  
務四箇度真隆昔ニシヘ。名望世ニヌクシタニヘリ。シカシト  
モ宿習ノ開發シ給ケルニシテ。頻リニ世間ノ榮耀ヲイトヒ。フ  
カク出離ノ要道ヲ尋子隱道ノ志。アサカラスシテ。ヨリヨリ  
籠居ノ暇ヲ申サシケルニアエテ勅許ナカリケレハ。ソノ本意

ヲトケラレスト云ヘトモアル時シハラク。西山ノ善峯寺ニ籠  
居シテ。心閑カニツトメ。ヲコナハシケルニイツシカ勅使ヒニナク  
シテ。ツ井ニ召出サシ給ニケリ。ソノ後ハ隱居ノスマヒモ。叶ハサ  
リケレハ。ツ子ニ上人ニ御對面アリテ。底下ノ凡夫開悟得  
達ノ要義ヲ談セラレケルニ。上人諸宗ノ大綱ヲアケテ。一  
一ノ義理ヲツクサルニ。皆上代上機ノ爲ノヲレヘニシテ。  
末代下根ノタクヒ。ヲヨヒカタシ。淨土ノ宗旨。稱名ノ本願ノ  
ミ。苦海ノ船師。愛河ノ橋梁ニテ。愚鈍下智ノ當機ニア  
ヒ叶ヘルト云。聖道淨土ノ與義ヲノヘラレケレハ。和尚隨喜  
ノ御心子ニコロニシテ。一乘圓頓ノ戒ヲウケ發心稱名ノ  
行ヲ崇重セラケル

散。

第二段

本願ノ音趣ヲトフラヒ。極樂ノ往生ヲソミマシメシケル余  
ニヤ。建仁元年九月二十二日ヨリ。七箇日ノ間。日吉  
聖真子ノ拜殿ニテ。寶圓實全仁慶良尋已下二十余  
人ノ門弟ヲトモナヒテ。且ハ本地彌陀ノ内證ニ資シ。且ハ  
垂跡明神ノ外用ヲカサランカタメニ。慈覺大師古風ヲシ  
タヒ。西方懺法ヲソ。ヲコナハシケル。六時ノ時コトニ。高聲念  
佛千遍マテ。トナヘ給シニ。偏執我慢ノ大衆定メテ。違亂  
ヲナスコトヤアラント。人思ヒ入ヘリケルニ。七箇日ノ間。ゾコハ  
クノ大衆群集スト云ヘトモ。皆歸敬ノ掌ヲ合せテ。誹謗ノ  
ク千ヒルヲ。ソコカサス。信心無二ノ前ニ。魔障便リヲ得サル

ニト見聞ノ諸人。不思議ノ思ヲナシアハスト。云コトナカ  
リケリ

第三段

四天王寺ノ別當ニ補任セラレシ時ハ。大僧正行慶寺務  
ノ時。顛倒シテ後。年久シクナリニ。繪堂ヲ新造シテ。漢家  
本朝ノ往生傳ヲエラヒ。尊智法眼ニ仰ヒテ。九品往生人  
ヲ。畫圖ニアラハシ。个道相國賴實以下九人ノ秀才ヲス、  
メテ。和歌ヲ詠シテ。九品面々ノ行狀ヲ稱嘆シ。菅宰相  
千時大為長卿ヲシテ。四韻ノ周詩ヲ賦セシメ。權大納言  
教家卿色紙形ヲ。清書セラレケル。所謂

上品上生

智覺禪師 新修往  
生傳

神トハ

像ノ

九品蓮臺其寂上

詞花永馥禪棲賦

直詣西方生死斷

炎王常拜畫圖偽

コ、ノシナカミナ干花ノラテナニモ

コロモノウラニ鳥ヤスマラン

上品中生

賢劫如來放大光

六旬有限新泉路

地上蓮粧生八葉

眼前兼得佛靈告

杭州智覺獨當機

宿鳥不驚寂定衣

不經陰府古今稀

蘊息高僧面見歸

入道大相國賴實公

尼善慧戒珠集

善哉善慧往西方

三昧無入舊道場

俗間花色耻餘香

九品妙臺第二望

フルサトニノコル蓮ハアルレニテ

ヤトル一夜ニ花ソヒラクル

上品下生

我朝々請大夫士

勁節先彰同雪竹

三年十月黃昏淚

夢裏乘蓮西去速

ミレユメノヤトラウツ、ニサトリキテ

キノフノ花ニツユソヒラクル

中品上生

大原貧侶臨河畔

前攝政殿下道家公

侍從所監藤原忠季後拾遺生傳

二世清祈一念深

善根高挺屬雲林

上品下生金刹心

客塵自是不能侵

權大納言基家

大原沙彌戒珠集

欲畫彌陀功獨遲

尊偽未成沙腰颯  
夜夢縱告出離道  
中品上生今所示

浮生易滅雨來時  
老淚不堪憶予悲  
至千舊友各相思

夕立ニ水モ一サコノカハナミヲ  
ハクスノナカノウエノシラツユ

前太政大臣公繼

中品中生

少將義孝保胤性生傳

天延之北無常理  
故蕊露消空暗淚  
羽林昔有雙棲鳥  
極樂界中詩上趣

子葉落風槐體家  
荒原煙盡只春霞  
夢路今攀一詠花  
品生所指足相加

シノハスヨナニ古里ノ梅カ香モ

右大將實氏

カサ九中ノ花ノヤトリニ

中品下生

沙門智縁戒珠傳

昔在人間雖放逸  
鬢花落飭罷秋鶴  
晝夜三時三品觀  
九蓮第六託生趣  
ステヲラテ子思フ鹿ノシルヘヨリ  
カリヤニチハイトヒイテニキ

歸真季積智縁功  
羽獵發心禮世雄  
桑榆一幕一期終  
迷盡向西結大夢

正三位家隆

下品上生

釋法敬戒珠集

當初法敬有遺約  
音聲聞天遷化曉

身後不忌靈告專  
光明入夢十三年

善哉一子出家力  
昔寺維那修善積

立歸ルユメノタ、千ニラシヘラク  
ウテナノ花ノスエノタハツユ

下品中生

尋鞍馬寺久棲蓮

陽茂閣梨從入夢

九生蓮位上中下

以第八門當此品

ヲレヘ入ル道ハカスカノ里ノ月

サトレハ春ノヒカリナリケリ

遂是雙親得道緣  
宜昇下品上生蓮

從二位民部卿定家

覺真阿闍梨續本朝  
住生傳

祈請炎王有所思

西方覺藝不生疑

萬部花文讀誦持

來緣定契命終時

入道從三位保季

下品下生

釋慧進貧無所畜

欲飛鵝眼空勞眼

百部花文今已滿

善哉下品下生位

九ノレ十子カフ蓮スノスエノ糸ヲ

ミタサテカヘルヨルノレラナニ

色紙形記銘曰

貞應三年甲始自去冬三春孟夏之間以繪師法眼

尊智守本樣依傳文圖繪既訖今於西面更畫作九

帛在生之人殊勸進一乘淨土之業表裏共不交他

釋慧進新修傳

檀施之物誰應侵

不憶衆心還有心

八旬榆景遂西沈

從在世間素意深

正四位下範宗

像

筆以智圖之以詩歌形其心詩句九品同令菅大府  
卿為長卿作之和歌並相以下廣勸九人各詠一首  
復當南北裏同畫四天偽此堂大僧正行慶寺務之  
間顛倒之後以聖靈院禮堂東廂為其所今新建立  
千舊跡彰興隆之本意也

別當前大僧正法印大和尚位慈圓記之

是廣諸人ノ心ヲス、メテ欣求ノ思ヲハケニサシタメナリ。ニ  
コトニ此形狀ヲ見テ誰ノ人カ穢惡宛滿ノサカヒヲイトヒ。  
淨土不退ノ砌ヲコヒ子カハサラン。自證ノ得脱ノミニアラ  
ス。化他ノ御志ヲカ、リケル。アリカタク貴クモ。侍ヘルカナ。日  
吉ノ社ニ百日參籠シ給テ。後生菩提ヲ祈申サシケル。念

行

誦ノヒニ。百首ノ歌ヲ詠シ給ケル與ニ

我々ノム。七ノ社ノユフタスキカケテモ六ノ道ニカヘスナ

人ヲ見モ我身ヲミルモハイカニモアミタフツナモアミタツ  
トソ書付給ケル。往生ノノソミ。フカクシテ。欣求ノ心ヲハケマ  
サシケル。稱名ノ薰修日淺ク。光陰ノ運轉時ウツリヌト  
ヤオホシメサシケニ。或時詠シ給ケルハ

極樂ニマタ我カ心ユキツカスヒツシノ歩ミシハシト、ニレ

浮生ヲ輕クシ。思ヲ淨刹ニカケ給フコト。ヒトヘニ。上人諷諫  
ノユヘナリケレハ。歸敬他ニコトニシテ。上人遷化ノ時ハ。哀傷  
ニタヘス。寂初ニ引接ヲ待由。中陰ノ作善ニ。諷誦文ヲサ、  
ケシ。報恩謝德ノ儀。子ニコロナリケル。サレハ御臨終ノ後。

或ハノ夢ニ示サシケルハサレモ苦勞セシ。顯密誓古ハ。物ノ要ニモ立ス。時々セシ空觀ト稱名念佛ハカリソ。後世ノ賢糧トハチリタルトソ。仰セラレケルイサ。空觀ト無常ヲ念スレナリ

第四段

月輪ノ禪閣ノ御息妙香院ノ僧正良快ハ慈鎮和尚ノ附法トシテ大師正嫡ノ跡ヲウケ顯密兼學ノ宗近ナリモシカレトモ宿縁ノ内ニモヨホサレケルニヤ。上人ノ勸化ニ歸シタマヒ。厭離穢土ノ思ヒフカク欣ズ求淨土ノ願。子ニコロナリシカハ偏ヘニ彌陀ノ本願ヲ信シテ念佛ヲ行シタマヒ。淺辺念佛抄ヲ記シテ無智ノ輩ヲ勸メラル。彼ノ序ノコトハニハ夫以ミシハ本覺真如ノ月。無明戲論ノ雲ニカク

シ常住佛性ノ蓮入。生死妄染ノ泥ニツツモレシヨリコノカタ。或ハ燒熱大燒熱ノ炎ニ咽ヒテ多ク百千劫塵數ノ諸佛ノ出世ヲモスキ。或ハ紅蓮大紅蓮ノ氷リテ千ヲシテ無量億生恒沙ノ如來ノ化導ニモモレタル。或ハ餓鬼城ニ入テ一萬五千歲飢饉ノウレヘ。忍ヒカタク。或ハ畜生道ニ墮シテ三十四億類殘害ノ苦シミイクハク。適人中ノ生ヲウクトイヘトモ。餘州ニアリテ佛法ヲ聞ズマシ天上ノ報ヲ感ストイヘトモ。快樂ニホコリテ淨業ヲ修スルコトナシ。而ルニイマ南瞻部州佛法流布ノ國ニムシテ西方淨刹ヲ欣ク求指南ノ教ヲ得タリ。ゴノタヒ出離ノ直道ニ赴スバ。イツレノ時ニカ。菩提ノ正路ニ向ヘキ。就中一生涯ノサタニリナキ

事。夢ノコトシ。幻ノコトシ。五盛陰ノ待コトアル。且トヤセシ。暮トヤセシ。シカルニ。煩惱内ニ。モヨホシ。惡縁外ニヒキテ。コトハリニ。ヲトロク。聳トビクナクソノ。勤カライタスタクヒ。レナリ。頓死トビマタメシ。今日。ソノ日ニアラストハ。爭カレラシ。我身。ソノ類ニアラストハ。無常ノツケ忽ニキタリ。有爲ノスカタナカクカクレヌシハ。一善ノタクハ。モナキニヨリテ。二途ノ底ニ墮シヌ。過去漫々ノ流轉ステニカクノコトシ。未來永々ノ輪廻又然ヘシ。イソキテ出離ノ要術ヲ求ヨ。更ニ生死ノ妄報ニ着スルコトナカシ。爰彌陀ノ念佛ハ諸教所讚多。在彌陀大恩教主ステニコノ佛ヲ稱讚シタニ。彌陀一教利物偏

甚

増末代ノ我等。寂カノ國ヲ欣ヨクヘシ。誠ニ是末代相應ノ要法。凡夫易行ノ直道尤者歟。コノユヘニ。初心行者ノタメニ。念佛ノ簡要ヲヨクレシテ。分テ七段トシテモテ。九品ヲ期已上取證トシカ、シタル

第十六卷

第一段

高野ノ僧部明遍ハ。少納言通憲ノ子ナリ。長門ノ法印敏覺カ嫡弟トシテ。三論ノ奧旨ヲキハメ。才名世ニユルサレタリシカトモ。名利ヲイトス。コ、ロフカクシテ。本寺ノニレハリヲ。コノマスツ井ニ三十七ノトシ。交衆ヲノカシ。公請ヲ辞シ。光明山ニ。居ヲシメテ。諸行ヲステス。萬善ヲイトハス。ヒロク出離

御書卷之七

ノ要路ヲタツ子<sup>ア</sup>マ子<sup>ク</sup>。顯密<sup>シ</sup>ノ勤行ヲイタサシケリ。時ノ人  
明遍ハ。當時無雙ノ碩學<sup>キ</sup>ナリ。轉任<sup>シ</sup>遲々ノユヘニ籠居ス  
ル歎ノヨシ。ヲノヲノオシミアヒケシハ。生年四十五ノ時。少  
僧都<sup>ヲ</sup>。宣下セラレケレトモ。ガタク辞シテ。勅喚<sup>ニ</sup>シタカハス。隱  
遁ノオモヒヨイヨ切ニシテ。建久六年五十四歳ニテ。ナカ  
ク光明山ヲステ。跡ヲ高野山ニカクシ。出離ノツトメマス  
マス。子<sup>シ</sup>ニコロナリ。有智ノ道心者。チカクハゴノ人ナリ

第二段

僧都上人<sup>ノ</sup>所造ノ選擇集<sup>セ</sup>ヲ披覽<sup>シ</sup>テ。コノ書ノオモムキ  
イサ、カ。偏執<sup>ト</sup>ナルトコロアリケリト。オモヒテ。寢ラレタル夜ノ  
夢ニ。天王寺ノ西門ニ。病者カスモシラス。ナヤミフセルヲ。一

人<sup>ノ</sup>聖鉢<sup>ニ</sup>ニカユヲイシテ。匙<sup>ヲ</sup>モチテ。病人ノ口<sup>ニ</sup>コトニイル、ア  
リケリ。誰人ニカアラントトフニ。カタハラナル人コタヘテ。法然  
上人ナリトイフト。見テサメヌ。僧都オモハク。ワレ選擇集ヲ  
偏執ノ文ナリト。思ツルヲイシメラル。ユメナルヘシ。コノ上  
人ハ機ヲシル。時ヲシリタル。聖ニテオハシケリ。病人ノ様ハ。バ  
メニハ。柑子<sup>ヲ</sup>。橘梨子<sup>ヲ</sup>。柿ナト。タクヒヲ食スレトモ。チニハ。ソシ  
モト、マリヌシハ。ソツカニオモユヲ。モチテ。ノトヲウルホス。ハカリニ  
命ヲカクコノ書ニ。一向ニ念佛ヲス、メラシタル。コレニタカハ  
ス。五濁濫漫ノ世ニ。佛法ノ利益次第ニ滅ス。コノコロハ。  
ア<sup>ニ</sup>リニ代<sup>リ</sup>タリテ。我等カアリサ。タトヘハ重病ノモノ、コト  
ニ。論法相ノ柑子<sup>ヲ</sup>。橘モクハシス。真言止觀ノ梨子<sup>ヲ</sup>。柿モ

御傳卷三 二十七

念<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>。念佛三昧ヲオモユニテ。生死ヲイツヘキナリケリトテ。忽ニ顯密ノ諸行ヲサシヲキテ。專修念佛ノ門ニイリッ。ツノ名ヲ空阿彌陀佛トソ。号セラシケル。トリツキ。天王寺ト。ミラシケルモ。由緒ナキニアラス。コノ寺ハ極樂補處ノ觀音大士聖德太子トムマレテ。佛法ヲコノ國ニヒロメ給シ寂初ノ伽藍ナリ。欽明天皇ノ御タメニ。七日ノ念佛ヲツトメタマヒ。命長七年二月十三日黒木ノ臣ヲ御使トシテ。善光寺ノ如來へ御書ヲ進セラル。ソノ御コトハニハ。名號七日稱揚已以斯爲報廣大恩仰願本師彌陀尊助我濟度常護念ト侍ケルニ。如來ノ御返報ニハ。一日稱揚無恩留何况七日大功德我待衆生心無間汝能濟度

豈不護トソ。アソハサシケル。御表書ニハ。上宮救世太聖ノ御返事ト侍ケル。コノ御消息ニコソ。コノ國ハ念佛三昧ノ有縁ナル事モアラハレニケシカノ鳥居ノ額ニモ。釋迦如來轉法輪所當極樂土東門中心トシカ、シテ侍ル。ワカ國ニ生ヲラケン人ハ尤コノ念佛門ニ。歸スヘキモノナリ

第三段

上人天王寺ニオハシケルトキ。僧都善光寺參詣ノ事アリケルカ。タツ子參セラシテ。マツ使ニテ案内シ給フニ。上人客殿ニ出マシケテ。コレヘト仰ラル。僧都サレイリテ。イマタ居ナホラヌホトニ。コノタヒイカ、シテ。生死ヲハナシ候ヘキト。申サレケレハ。無阿彌陀佛ト唱テ。往生ヲトスルニハ。シカストコソ。存

シ候ヘト。申サレテハ。僧都申サル、ヤラ。タレモサハ。見ヲヨヒ  
テ侍リ。タレシ念佛ノトキ。心ノ散亂シ。妄念ノオコリ候ヲハ。  
イカ、シ候ヘキト。上人ノタマハク。欲界ノ散地ニ。生ヲウタル  
モ。心<sup>ア</sup>ニ散亂セサラシキ。煩惱具足ノ凡夫。イカテカ妄念  
ヲト、ムヘキソノ條ハ源空モチカラ。ヲヨヒ候ハス。心ハ千里ミ  
タレ。妄念ハキホヒ。オコルトイヘトモ。口ニ名號ヲトナヘハ。彌陀  
ノ願力ニ乗シテ。決定往生スヘシト。申サレケレハ。コレヲケ給  
候ハンタメニ。ニイリテ候ツルナリトテ。僧都ヤカテ退出シ給  
ニケレハ。初對面ノ人。一言モ世間ノ禮儀ノ詞ナクシテ。退  
出セラレヌルコトヨトテ。人々タウトヒアヒケリ。上人ウチヘイ  
リ給テ。心ヲシツメ。妄念オコサスシテ。念佛セントオモハンハム

サテハ

マシツキノ目鼻ヲトリハナキテ。念佛セントオモハンカ如シ。アナ  
コトコトシトモ。仰ラシケル

#### 第四卷

ソノ後ハ。僧都フカク上人ニ歸シ。專修ノ行。ヲコタリナカリ  
ケルカ。念珠ヲハヤククリテ。數遍オホキ事ヲハ。不實ノキハマ  
リナリトテ。オホキニ不受セラシケルニアルトキ。修行者一人  
キタリテ。毎日ノ念佛ハ。イカホトラカ。所作トサタムヘク候ラン  
ト。タツ子申ケルニ。御房ハ。イクラ程ヲ申サル、ソトカヘシトハ  
レケレハ。毎日百萬遍ヲ申ヨシヲ答フルニ。例ノ不實ノモノ  
トテ。返答ニモ及ハスシテ。ウチヘイラレニケレハ。修行者モ歸ニ  
ケル。借都千トマトロミ給ヘル夢ニ貴<sup>クツト</sup>ケナル僧キタリテ。ツケ

テノ給ハク。毎日百萬遍ノ行者ヲイヒサマケヌル事。ハナハ  
 タシカルヘカラストテ。モテノホカナル。氣色ニテ。ワレコシ善道ナ  
 リト。仰ラルトミテ。ヲトロキヌ。遍身ニアセナカシ。習サハキテ。心  
 ノヲキトコロナキ。テ。カナシク。オホエテ。時尅イクホトヲヘサリケ  
 ケレハ。ガノ修行者ヲ。ヨヒカヘシテ。コノヨシヲカタリ。前非ヲク  
 井ンタメニ。人ヲ方々ニツカチツカハシテ。ヲハセラシ。高野中ヲ  
 タツ子サセラル、ニツ井ニユキカタヲシラスナリニケリ。僧都申  
 サシケルハ。日來ハヤクリノ數反ヲ不受スル事。佛意ニツム  
 ケルユヘニ。化人ノツケレメサシケルナリ。實ノ修行者ニハアラサ  
 リケリトテ。其後ハミツカラモ。ツ子ニ百萬反ノ數遍ヲソ。セラレ  
 ケル。僧都ノ夢想ヲモチテ。コレヲ思ニ。上人數反ヲス、メ給

ヘル事。アニ和尚ノ尊意ニカナハサラニヤ。タ、アフキテ信ヲト  
 ルヘシ。ヲロカナル心ヲモチテ。コレヲアサケル事ナカシ

第五段

僧都ヒトヘニ。上人ノ勸化ヲ仰信シ。フタ心ナカリケレハ。上  
 人ノ滅後ニ。カノ遺骨ヲ。一期ノアヒタ。頸ニカケテ。ノチニハ  
 高野ノ大將法印貞曉鎌倉相傳セラレケリ。龍山三十  
 年ノアヒタ。朝ニハ自誓戒舍利講。夕ニハ臨終ノ行儀ヲ  
 修シ。趨シテ六時ノ同音念佛。日々夜々ニヲコタル事ナ  
 シ。他ノタメニハ。人ノノソミニシタカヒテ。顯密ミツノ法門ヲ談セラ  
 シケレトモ。自行ニハ。一向稱名ノホカ。他事ヲマシヘス。長齊  
 持形ニシテ。草庵ヲイツルコトナシ。練行トシフリテ。薰修日

アニタナルサテモ穢土ノ縁ツキテ西土ノ望千カツキケルニ  
貞應<sup>ゴモウ</sup>三年四月上旬<sup>シノ</sup>ノコロヨリイサカ風痾ニヲカサシ  
寢食<sup>モシ</sup>例ニ違レケルハ門弟等オノオノ結番シテ看病ヲイ  
タシ念佛ノコエヤム時ナシ病ニシツムトイヘトモ法門ノ談  
議日コロニカハラス日ヲフルマニ經論ノ明文<sup>キョウモン</sup>ヲ誦シテ念  
佛イヨイヨ強盛ナルツ井ニ六月十六日子尅頭北面  
西ニシテ念佛相續シ禪定ニ入カコトクイキタエ給ニケル  
生年八十三ナリミル人隨喜<sup>ズイキ</sup>ノ感淚<sup>カンレイ</sup>ヲナカレキク人在  
世ノ德行ヲシタイケル

傳繪詞卷三終

